

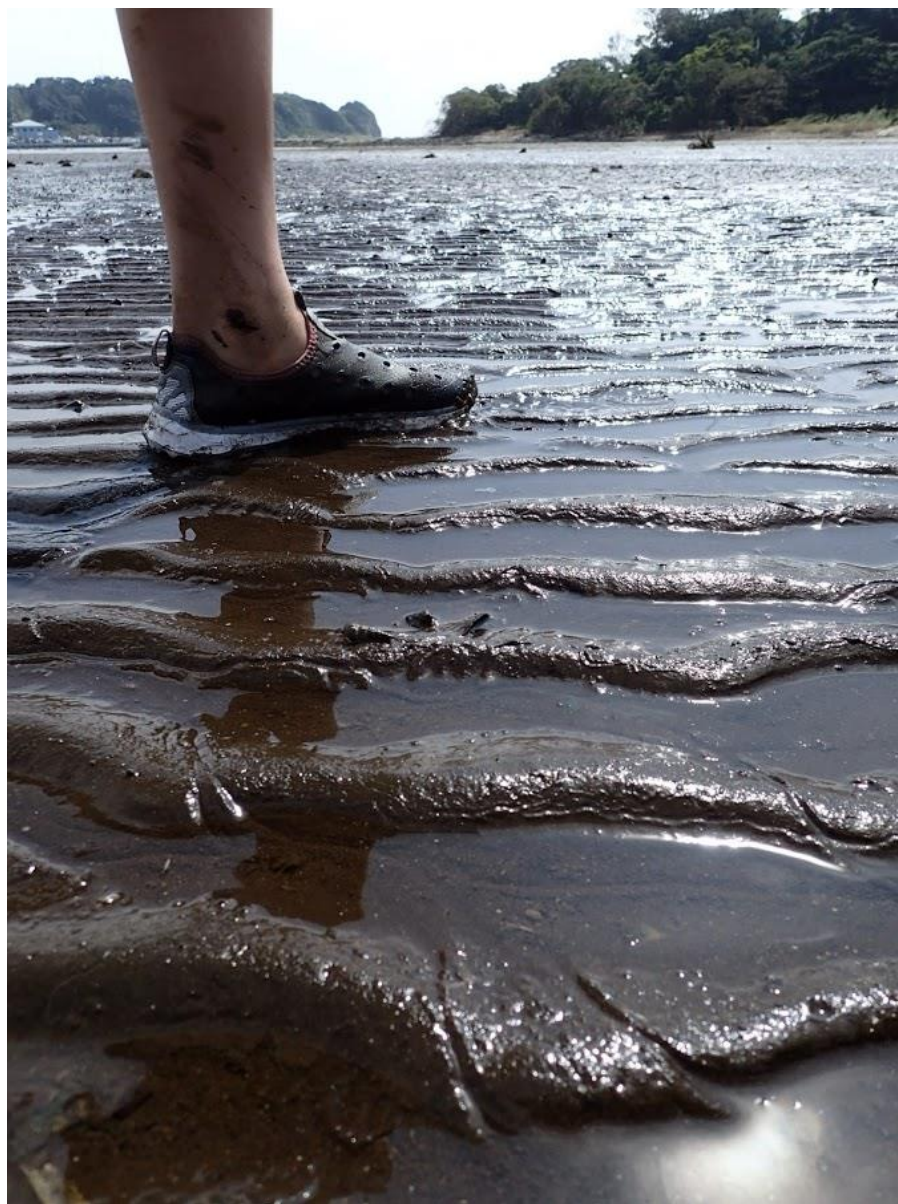


OWS
Research and Education
Non-profit organization
The Oceanic
Wildlife Society

REPORT 2020

2019.04~2020.03

特定非営利活動法人 OWS
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-27-13 シヤトレ一代々木704



沿革

- 1998年 11月●OWS創立総会開催 渋谷区恵比寿に事務局を設置
- 1999年 02月●北西ハワイ諸島ミッドウェー環礁に現地事務所設置
06月●ミクロネシア・パラオに現地事務所設置
09月●東京都NPO法人の認証取得
- 2000年 02月●各種会員の募集開始
03月●会報「季刊エブオブ」創刊
08月●公式ホームページ開設
- 2001年 02月●OWS会長にジャック・T・モイヤー氏、副会長に倉田洋二氏
就任
06月●「ネイチャースクール(自然体験プログラム)」開始
- 2002年 01月●「OWSネイチャーガイド養成コース」開始
04月●「アンガウル州立自然公園プロジェクト」開始
09月●事務局を目黒区下目黒に移転
10月●「海のセミナー」開始
- 2003年 06月●「水中ゴミ調査」開始
09月●アンガウル州立自然公園ビジターセンターオープン
11月●「海のトークセッション」開始
- 2004年 01月●ジャック・T・モイヤー会長逝去
05月●長谷川博氏(東邦大学理学部教授)、OWS会長就任
06月●「海辺の自然教室」開始
- 2005年 09月●インド洋クリスマス島においてボランティアプログラム開始
10月●事務局を豊島区雑司が谷に移転
- 2006年 01月●メンバーによる各活動の実行委員会を設置、運営開始
- 2007年 07月●「OWS 5人の写真展(巡回写真展)」開始
- 2008年 03月●「北限域の造礁サンゴ分布調査プロジェクト」開始
05月●「砂浜海岸生物調査」開始
- 2009年 08月●「北限域の造礁サンゴ分布調査プロジェクト」探索調査開始
09月●「ネイチャースクール 日帰りプログラム」開始
- 2010年 03月●「造礁サンゴフィールド図鑑～伊豆・三浦・房総編発行
05月●「海辺のナチュラリスト講座」開始
- 2011年 04月●東日本大震災 被災地支援活動開始
06月●ミッドウェー環礁調査ツアー実施
- 2012年 06月●「江奈湾干潟保全活動」開始
06月●「未来に残したい海」プロジェクト・自然観察&カメラ教室開始
12月●子どもフォトコンテスト開始
- 2013年 04月●江奈湾・毘沙門湾干潟生物調査開始00
07月●海洋ゴミ企画展開始
11月●事務局を渋谷区千駄ヶ谷に移転
- 2015年 04月●国立環境研究所の業務委託を受け、全国10海域での造礁
サンゴモニタリング調査 開始・新「サンゴ調査プロジェクト」開始
- 2017年 10月●国立環境研究所の業務委託を受け、全国10海域での魚類調査
開始
- 2018年 09月●OWS創立20周年と国際サンゴ礁年の特別イベントとして、
「海のセミナー2018 海の話・サンゴの話」を開催
- 2019年 10月●秋山彰男顧問逝去
11月●倉田洋二副会長逝去

組織概要

名称	OWS(オーダブリュエス) (OWSという名称は The Oceanic Wildlife Society (英語表記) の頭文字からとられたものです)		
所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷4-27-13 シャトレー代々木704 TEL: 03-6432-9917 FAX: 03-5960-3546 URL: http://www.ows-npo.org/ E-mail: info@ows-npo.org		
目的	OWSは、国内外の海洋域における自然環境及び生物とその生態系について、科学的な調査及び研究を行い、その結果得られた情報及び成果の有用な活用とその自然環境の維持・保全を目的とした活動をもって、地域社会に貢献するとともに、環境保護意識の普及を図ることを目的とする。		
役員	会長	長谷川 博	東邦大学理学部名誉教授
	副会長	倉田 洋二	元小笠原水産センター所長(2019年11月逝去)
	代表理事	横山 耕作	
	副代表理事	高砂 淳二	
	理事	森 紀子	
	理事	宮川 貴子	
	理事	杉森 雄幸	
	理事	池上 喜代壱	
	監査役	吉岡 宏治	
	学術顧問	秋山 章男	元東邦大学理学部教授(2019年10月逝去)
	法律顧問	矢田 誠	新麻布法律事務所 弁護士

2019年度の活動実績

事業名	事業内容	実施日	実施場所	支出額(円)
環境教育事業	子ども対象ネイチャースクールの開催(磯海岸) 親子対象ネイチャースクールの開催(干潟)	6~7月 9月	神奈川 神奈川	652,000
普及啓発事業	会報「季刊エブオブ」の発行 学習教材パネル(海洋ゴミの写真パネル)の貸出 海洋ごみ写真企画展「海洋ゴミを考える」の開催 小中高生・海の生き物フォトコンテスト開催 海洋ゴミ問題をテーマとした出前授業 海洋ゴミシンポジウムにおける講演 世界アルバトロステー2020実行委員会参加	年4回 随時 8月・2月 7~10月 5~10月 2月 2月	全国 全国 東京 全国 全国 東京 東京	588,000
調査研究事業	造礁サンゴモニタリング調査(国立環境研究所連携) 魚類調査(国立環境研究所連携) 五島市福江市 オオスリバチサンゴ調査	10~2月 10~2月 10月	全国 全国 長崎	4,371,000
環境保全協力事業	江奈湾干潟保全活動(投棄・漂着ゴミの回収処分) 干潟生物市民調査及びモニタリング調査 江奈・毘沙門地区の海岸投棄ごみ調査の実施	4~3月	神奈川	342,000

2019年度 活動報告



①05/19 磯・砂浜海岸コース
＜子ども対象・三浦半島諸磯海岸＞
参加児童:13名・スタッフ6名で開催



③09/14 干潟・磯海岸コース
＜親子対象・江奈湾干潟＞
参加者:8名・スタッフ6名で開催



②06/22 磯・砂浜海岸コース
＜子ども対象・城ヶ島海岸で開催＞
参加児童:20名 スタッフ8名で開催

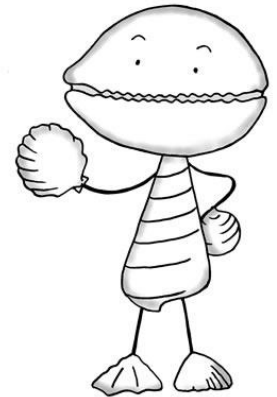
新しい取り組み：図鑑づくり



●子どもたちが観察・撮影した生きもの写真で図鑑をつくって参加者に配布しました。

会報「季刊 エブオブ」の発行

- 4月20日発行(春号) Vol.73
特集:「鳥島のオキノタユウ集団」 2,500部増刷
執筆:長谷川博会長 長谷川会長が講演で配布
- 8月20日発行(夏号) Vol.74
特集:「温暖化による魚類相の変化を探る」
執筆:中村洋平(高知大学)・インタビュー瀬戸内千代
- 11月20日発行(秋号) Vol.75
特集:「サケ学から知る地球環境」
執筆:帰山雅秀(北海道大学)
- 2月20日発行(冬号) Vol.76
特集:「釣り餌動物の流通及び野外への侵入状況」
執筆:斉藤英俊(広島大学)



海洋ゴミ問題に係わる活動

- **出前授業（池上喜代壺理事）** 10月24日（木）

開催：兵庫県宝塚市雲雀ヶ丘学園中学校

参加者：3年生160名

- **講演（横山）** 2月23日（日）

主催：（公財）日本野鳥の会・法政大学

シンポジウム「海洋プラスチックごみから
海鳥を守ろう」

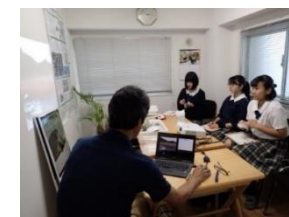
参加者：221名（一般）



海洋ゴミ問題に係わる活動

● 学校の授業支援 事務局訪問

- ① 05月09日 宮城県七ヶ浜中学校
修学旅行
- ② 05月17日 お茶の水大学付属高校
渉外授業
- ③ 07月09日 湘南学園高校
渉外授業



● 企画写真展「海洋ゴミについて考えよう！」

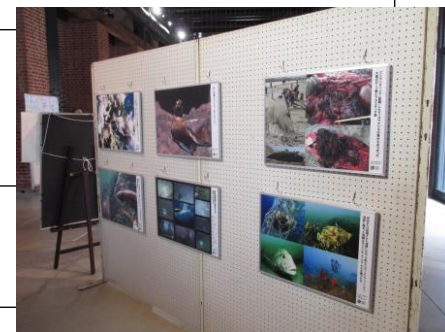
- ① 8月6日～8月31日
展示会場: 板橋区立リサイクルセンター
- ② 2月23日
展示会場: 法政大学市ヶ谷富士見ゲート校舎
参加者: 221名



海洋ゴミ問題に係る活動

●環境学習用 写真パネルの貸出

	貸出先（学校・団体・法人）	イベント・プログラム名、授業内容等
1	認定NPO法人エコプラザさばえ	さばえ環境フェア2019にて使用 6月
2	岐阜県立大垣西高等学校	文化祭企画 9月
3	社会福祉法人ちいろば会 原町聖愛こども園	運動会 9月
4	城南衛生管理組合	環境祭り 10月



貸出先:4団体

第8回 小中高生・海と生きものフォトコンテスト



●第8回 小中高生・海と生きものフォトコンテスト

応募期間:07月15日～10月15日

審査発表:11月審査・12月発表

審査員 :高砂淳二・杉森雄幸

入賞 :14点



審査



●生き物観察賞

協賛:オリンパス

2019

造礁サンゴモニタリング調査

●造礁サンゴモニタリング調査

◆各調査の実施

- ①串本 10月
- ②五島 10月
- ③天草 10月
- ④壱岐 11月
- ⑤対馬 11月
- ⑥安良里 12月
- ⑦田子 12月
- ⑧沖ノ島 12月
- ⑨竜串 01月
- ⑩坂田 02月

2019

魚類調査

● 魚類調査

コドラート調査数	42カ所
ライン調査数	19カ所

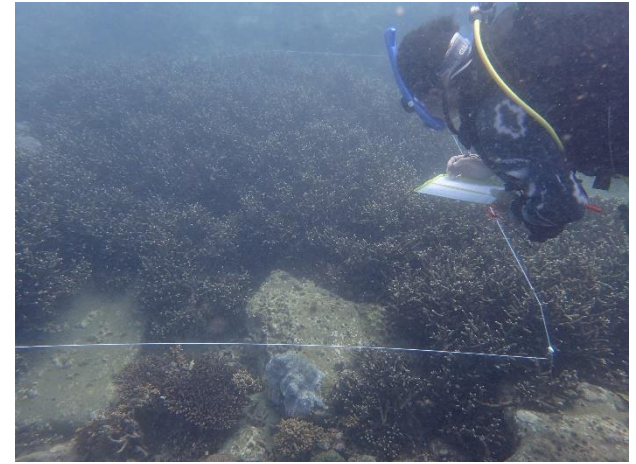


魚類調査

● 魚類調査2年目を迎えて



九州大学天草臨海実験所:新垣准教授(左端)
2年目の指導を受ける



定量調査⇒コドラート調査



定性調査⇒ライトランセクト調査

保全のための調査

● 調査内容

位置確認: 緯度経度・水深

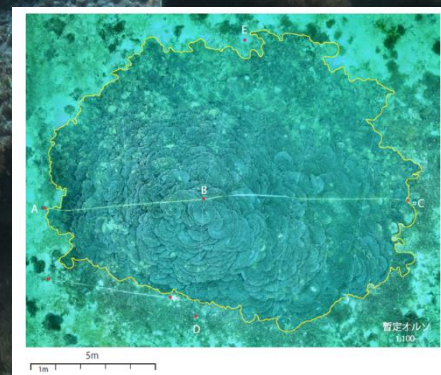
サイズ計測

撮影

年代測定

10月17日 長崎県五島市福江の離島・多々良島に生息している日本最大級の巨大群体オオスリバチサンゴの実態調査を実施しました。このサンゴ群体はOWSの五島の調査海域に隣接しています。

(調査連携: 国立環境研究所・環境省五島自然保護官事務所)



2019

江奈湾干潟保全活動

●モニタリング(観察会)・ゴミ回収

①04月20日 モニタリング+ ゴミ回収活動
参加者:9名

②06月08日 モニタリング+ ゴミ回収
参加者:17名(日大生物資源学部 9名)

③09月28日 モニタリング
参加者:8名

④02月08日 モニタリング+ゴミ回収
参加者:10名

⑤03月14日 モニタリング+ゴミ回収⇒雨天中止

延参加者数: 44名



2019

江奈湾干潟でのゴミ回収量



8年間 28回の回収

江奈湾ゴミ回収記録		
年度	回数	回収量
2012年度	3	1,307.8
2013年度	4	1,051.8
2014年度	6	652.4
2015年度	4	1,109.2
2016年度	3	485.7
2017年度	2	297.4
2018年度	3	775.0
2019年度	3	506.5
合計	28	6,185.8

6,185 kg

2019

江奈湾干潟保全活動

● 干潟生物調査(江奈湾・毘沙門湾干潟)

①07月20日 江奈湾干潟 12名

②07月21日 毘沙門湾干潟 12名
(駐車スペースとれず江奈湾任意調査に変更)



延参加者数：24名

2019

江奈湾干潟保全活動



初記録種NT
チゴイワガニ



初記録種NT
ハザクラ



初記録種NT
ニッポンフサゴカイ

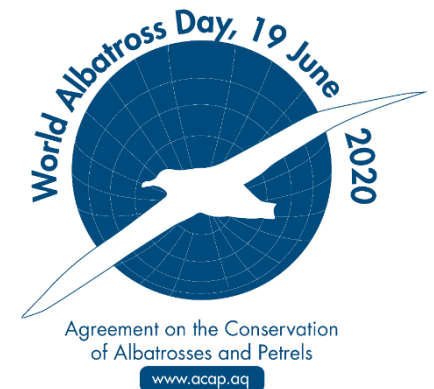
2019年度調査と観察会で確認した種
25種を追記

全319種
内RD種 41種

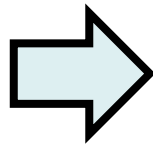
世界アルバトロスデー2020について

- ACAP : The Agreement on the Conservation of Albatrosses and Petrels
(ミズナギドリ目鳥類の保全に関する国際協定)

- 6月19日を「世界アルバトロスデー」に！
世界のミズナギドリ目鳥類が危機に瀕していることを
訴え、それらの保全活動を世界の人々に呼びかける



- 日本での協力呼び掛け



発起人代表
長谷川博 OWS会長

- ◆ 賛同団体(実行団体・順不同)
日本野鳥の会
NPO法人OWS
バードライフ・インターナショナル東京
NPO法人小笠原自然文化研究所
伊豆諸島自然史研究会
NPO法人リトルターン・プロジェクト
山階鳥類研究所

- ◆ 協力団体:WWFジャパン他6団体

日本での取り組み

● 世界アルバトロスデー実行委員会

- ・委員11名 委員長:長谷川会長
- ・2月1日設立
- ・所在地(事務局):OWS内

● 日本でのイベント名称

世界アルバトロスデー & シーバードウィーク
アルバトロス類と海鳥全般の保護を訴えるため、
日本での取り組みを表す名称とした

● イベント開催期間

2020年6月16日～21日

世界アルバトロスデー⇒6月19日

**新型コロナウイルス禍により
今年度のイベント開催は中止！**



<助成・活動協賛>

【活動助成】

◆ラッシュジャパン 干潟保全・ゴミ回収活動

【活動協賛・協力】

◆国立環境研究所 オオスリバチサンゴ調査 協力

◆オリンパス株式会社 ネイチャースクール 協賛
フォトコンテスト 協賛

◆スキューバプロアジア株式会社 エコメッシュ提供

<業務受託>

◆国立環境研究所 造礁サンゴモニタリング調査

◆国立環境研究所 魚類調査



<寄付・募金>

◆リコージャパン株式会社

◆株式会社東京マツシマ

<OWS法人賛助会員(スポンサー)>

●株式会社ピックルスコアポレーション

●高砂写真事務所

●株式会社フィットクルー

2020年度の活動予算

事業名	事業内容	実施日	実施場所	支出額(円)
環境教育事業	新型コロナ禍により全子ども対象全プログラムの中止 スタッフ研修会の実施	8月	神奈川 東京	0
普及啓発事業	会報「季刊エブオブ」の発行 学習教材パネル(海洋ゴミの写真パネル)の貸出 環境をテーマとした写真展の開催 講演「海洋ゴミを考える」の開催	年4回 随時 1月 1月	全国 全国 東京 東京	601,396
調査研究事業	造礁サンゴモニタリング調査(国立環境研究所連携) 魚類調査(国立環境研究所連携)	10～2月 10～2月	全国 全国	4,951,486
環境保全 協力事業	江奈湾干潟保全活動(投棄ゴミ・漂着ゴミの回収 干潟生物市民調査、モニタリング調査 干潟ネットワーク調査(三浦半島・御前崎・紀伊半島)	4～3月	関東	70,003